

西箕輪地区の医療体制について

1 医療をめぐる情勢

伊那市の高齢化率は29%を超え、要介護・要支援認定者も15%余りとなる中で、今後の地域医療は、住居地での必要な医療・介護サービスの提供体制が求められている。

高度急性期医療を提供する病院から回復期・慢性期医療を担う病院・診療所まで、機能の異なる医療機関が連携する地域完結型医療体制が求められ、在宅医療が重要視されてくる。

コンビニ受診や高齢化等による医療需要の増大、医師の高齢化、地方大学の医師派遣低下等による地域偏在、医師過重労働等による診療科偏在等々、様々な要因により、医師不足はますます顕著化している。

また必要医師倍率で見ると、長野県は全国で20番目に医師が不足しており、2010年の厚生労働省の調査では、二次医療圏別での上伊那の医師不足数は40人と見込まれている。人口10万人当たりの医師人員数は、全国平均が226.5人に対し、上伊那管内は134.7人となっている。

2 伊那市国保西箕輪診療所の現状

(1) 診療体制等

- ① 非常勤医師と長藤診療所医師が日替わりで診察を行っている。
- ② 往診及び小児の診察は行っていない。
- ③ 経営状況については、一般会計からの繰入金で補填している。
- ④ 患者数について、常勤医師の休職・退職後、平成25、26年度は回復傾向にあったが平成27年度は減少している。
- ⑤ 医師が高齢化している。

(2) 経営状況

医業収入での収支は、平成17年度から赤字状態。

平成27年度は、ルール分を除いた赤字額が約124万円。

医業収入も年々減収しており、平成27年度決算は約2,000万円程度。

○平成21年度から平成27年度までの累積赤字額

- 1) ルール分の繰入金を含んだ場合 6,007万円
- 2) ルール分の繰入金を除いた場合 1億2,206万円

(3) 患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
診療件数	3,112件	3,371件	3,439件	3,201件
延受診者数	3,856人	3,948人	4,113人	3,791人

3 西箕輪地区における課題

- (1) 人口が増えている地区であるが、医療機関が西箕輪診療所しかない。

- (2) 診療所においては、現在の医師の長期的な継続勤務が望めないなか、今後の医師確保は厳しい状況である。 1
- (3) 整形外科等、需要が多い診療科目を設置する必要がある。

4 地元要望について

平成27年5月27日付西箕輪地域協議会「西箕輪地区医療体制に関する要望」

- (1) 現在の勤務医の高齢化に伴い、医師不足の中、医師確保に不安がある。
- (2) 地区の医療体制に不安を感じている。
- (3) 旧西箕輪公民館跡地利用も検討する中で、小児を含む内科、整形外科、リハビリや在宅訪問診療の提供をする地域の拠点として展開してほしい。
- (4) 西箕輪地区に安心・充実した医療・介護体制の提供をしてほしい。

5 公的医療機関の誘致

(1) 基本方針

長野県厚生農業協同組合連合会富士見高原医療福祉センター診療所を誘致する。

(2) 厚生連病院の使命及び特徴

- ① 農村における無医地区の解消と安定した医療提供を目的に設置された医療機関。
- ② 厚生労働大臣の指定を受けた公的医療機関。
- ③ 介護施設の中で特別養護老人ホームの運営が唯一許可されている医療機関であり、医療と介護を一体的に運営することでサービスの向上と経営の効率化が図られている。

(3) 誘致理由

- ① 中南信地域を中心に、病院、診療所、老人保健施設、特別養護老人ホームなどの介護福祉施設を運営し、きめ細かなサービス提供と暮らしの安心を提供している。
- ② 医師等、医療スタッフの確保、介護状態に応じたサービスの提供等について、連携する医療機関の中で、機能と多様性を有し対応できる。
- ③ 地域における診療所等の運営実績
 - ・病院・診療所 みすず診療所（伊那市）等5施設
 - ・福祉施設 老人保健施設すずたけ（伊那市）等8施設
 - ・訪問看護 訪問看護ステーションすずたけ（伊那市）等3施設

(4) 施設等の整備方針

① 用地

地元要望及び厚生連の要望を踏まえ、西箕輪公民館駐車場（旧西箕輪公民館敷地）を建設地とする。

② 施設建設・医療機器等整備費

公的医療機関が事業実施することを基本とし、市は費用補助を行う。

③ 既存施設

現診療所施設等の利用については今後検討し、利用しない場合は市が取り壊し、土地は所有者であるJ A上伊那に返還する。

④ 運営

設立後の運営については、公的医療機関がすべてにおいて事業運営を行うものとし、市からの負担金・補助金は基本的に支出しない。